

## キヤノンマシナリー (コード 6344 大証 2 部)

業績推移(連結) (印の伸び率は前年同期間比。予想数値は会社発表分。配当性向は連結ベース。単位・百万円、%、円)

決算期	売上高		経常利益		一株当たり		配当性向	売上高 経常利益率
		伸び率		伸び率	純利益	配当		
07.12	24,254	+13.7	3,228	+14.8	228.2	25.0	11.0	13.3
08.12	36,541	+50.7	4,030	+24.9	296.1	25.0	8.4	11.0
09.12(予)	34,000	-7.0	1,570	-61.1	113.0	未定	-	4.6

### キヤノングループの FA 装置・半導体製造装置メーカー

特色...事務機器(プリンターやコピー機など)関連製品の生産設備など FA(ファクトリー・オートメーション)装置や、半導体製造における後工程設備(ダイボンダーなど)の開発・製造・販売を手がけている。ダイボンダーで国内シェア首位。キヤノングループ。

#### 08 年 12 月期は大幅増収増益に

FAシステム好調で大幅増収増益...08 年 12 月期は、上表のように売上高、経常利益とも 2 ケタの伸び率となり、過去最高の業績となったが、08 年 10 月時点における予想(売上高 391 億円、経常利益 45 億 3,000 万円)は下回った。事業別売上では、セミコンシステム事業が 76 億 9,600 万円(07 年 12 月期比 24.9%減)と大きく落ち込んだのに対し、FA システム事業は 288 億 4,400 万円(同 106.0%増)と大幅に増加した。セミコンシステム事業については、市場低迷の影響が大きいことから、主力商品であるダイボンダーにおいて「ワールドワイド ナンバーワン」プロジェクトによる装置性能アップや新規顧客開拓などを図ってきたものの、設備投資が消極的であるため回復の遅れていた市場が世界同時不況で下期以降急激に悪化した。一方、FA システム事業では、上期に獲得した事務機器関連と小型二次電池関連の大型受注が通期にわたって業績貢献した。

#### 09 年 12 月期は一転して減収減益へ

減収減益見通し...今期については、売上高が前期比 7.0%減、経常利益も同 61.1%減と、大幅な減益が見込まれている。事業部門別の売上予想は、FA システム事業:296 億円(前期比 2.6%増)、セミコンシステム事業:44 億円(前期比 42.8%減)で、FA システム事業の売上構成比率は 87.1%(前期 78.9%)へとさらに高まる見通し。FA システム事業では、中でも事務機器関連売上(キヤノン向け)が好調で、今期の同売上は 250 億円(前期比 12.5%増)に拡大し、売上構成比率は 73.5%(前期 60.8%)へ高まりそう。セミコンシステム事業については、半導体メーカーの設備投資が厳しい状況であることから会社側では受注・売上とも厳しく見込んでおり、売上構成比率は 12.9%(前期 21.1%)に縮小する見通しで、同事業のうち主力のボンディング設備売上は 34 億円(前期比 50.5%減)となりそう。会社側では、FA システム事業における守山事業所の効率的活用で事務機器関連設備の生産を計画通り進めることが今期の業績確保に大きく影響すると見ており、セミコンシステム事業では、今期は設備投資が抑制された非常に厳しい事業環境になると考えている。年間配当についても「できる限り行いたいだが、先行き不透明感が強いことから現時点で金額などは未定」としている。

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。